

講演会

チェルノブイリからフクシマを考える

子どもたちを原発の危険から守るために

原発の危険から子どもを守る北陸医師の会事務局
石川県能美市・小児科医師

講師 **吉田 均** 先生

とき **8月2日(木)**
午後7時30分～9時

会場 **富山電気ビル**
4F 7号室

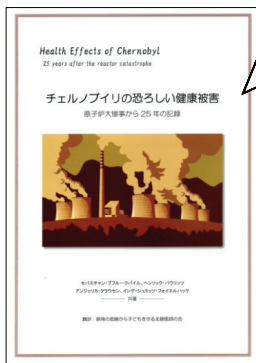
富山市桜橋通り3-1 Tel 076-432-4111

*駐車場は、電気ビルタワーパーキング、
または河口ビル駐車場が便利です。

対象 どなたでも参加できます

「真実を知らない人は、単にアホと
呼ばれる…
真実を知りながらウソだという人は、
罪人である」

プレヒト著「ガリレオ・ガリレイ」より



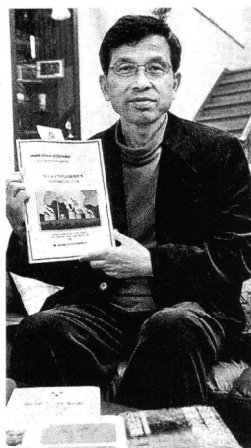
- 第1章 はじめに
- 第2章 汚染除去作業員
- 第3章 乳児死亡
- 第4章 遺伝的および催奇的障害(奇形)
- 第5章 甲状腺がんその他の甲状腺疾患
- 第6章 がんと白血病
- 第7章 チェルノブイリ事故によるその他の病気

講師の吉田先生はかつて小児心臓超音波検査の草分け的存在でした。その後、能美市で開業され、抗生物質や解熱剤など、我々小児科医師が当たり前のように使ってきた身近な薬に対して、使い過ぎに警鐘を発してこられました。

昨年の夏からは、石川県の小児科医師が中心になって作っているMLで、吉田先生が節電対策の工夫を披露された事に端を発し、「原発の危険から子どもを守る医師の会」が立ちあがりました。

今回、私たちはチェルノブイリの実相を知り、反原発に対する先生の思いとエネルギーな活動を聞いて、危険な原発の今後を考える糧にしようではありませんか。(金井英子・世話人代表)

北陸の小児科医ら 子どもを守る会結成



「原発の真実を知ってほしい」と話す吉田さん(能美市内で)

東京電力福島第一原発事故を受け、北陸三県の小児科医らが「原発の危険から子どもを守る北陸医師の会」を結成した。事務局を務める「よしだ小児科クリニック」(能美市)の吉田均氏は「放射能被害のデータを医学的に検証し、反原発につなげたい」と話している。(山田浩司)

医師の立場で反原発訴える

活動第1弾 チェルノブイリの実態報告

対しよつと吉田院長が会の結成を呼び掛け、三十人ほどが賛同した。活動第一弾として、ドイツの医師らがまとめた論文集「チェルノブイリの健康被害」を翻訳し、ブログで公開。旧ソ連チェルノブイリ原発事故から四半世紀を経た今も続く放射能汚染の実態を報告している。訳文は政府や国会議員らにメールで送ったほか、冊子にし、県内の市町村にも近く届けるという。会員たちは日々の診察で、幼い子を持つ保護者が放射能に抱く不安を肌で感じている。吉田院長は「不安をおおるのはよくないが、真実は伝えなければいけない。その結果、原発の機運が高まれば」と期待している。

*9:10より核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会の総会を開催します。

北陸中日 4/11付

主催 **核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会** TEL 076-442-8000

参加申込書

Fax 076-442-3033

申込者氏名